第３学年〇組　道徳学習指導案

指導者　〇〇　〇〇〇

1　主題名　　涙の友情’中学年２－　信頼・友情
　資料名　「ないた赤おに」（文渓）

2　主題設定の理由

〇　本主題は「友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。」ことを主なねらいとしている。この「友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。」とは，児童の友達作りの基盤をなすととらえることができる。発達段階から考えると，自分の立場から一方的に友達を見がちな児童に，相手の立場に立つこと，双方向から考えるという視点を与えることが大切となる。このことが，友達の親切に甘えるだけでなく，自分も友達のために役立とうとすることや，互いに励まし合って共に向上しようとする関係へと発展していくのである。

　また，互いに理解し合う者同士がよりよく生きるために，信頼し合い，助け合うことこそが友情を高めることは，高学年の２－・に関連して，「互いに信頼し，学び合って友情を深め，男女仲良く協力し助け合う。」ことにもつながる内容であり，大変意義深いと考える。

〇　本学級の児童は，１学期に比べ，お互いのことが分かり始めてきたところである。また，行動範囲の広がりと共に，交友関係も広がりを見せてきた。１学期後半に行ったアンケートの結果から，「友達はやさしい」ととらえている子は半数以上いる。これは日常生活の中で，学用品の貸し借りなどの出来事を通して，「友達は困っている時に助けてくれる存在」と見ているようである。反面，「何でも話せる友達がいる」では，そう思わない子も数名おり，友達をまだ表面的に見ている傾向にある児童の実態が浮かび上がった。

　そこで，このような時期，友達の長所のみならず短所も受け入れ，良いときは共に喜び，困難に対しては共に助け合っていくことの良さや大切さを感得させることは意義深いと考える。

〇　本時指導にあたっては，児童に登場人物の赤鬼と青鬼とを二人一組となって役割演技をさせ話し合い，登場人物になりきって気持ちを語らせることを通して，ねらいとする価値に迫っていきたい。導入段階では，友達とのかかわりにおける嬉しい体験を想起させ，自分がいかに友達にしてもらっていたかに気付くきっかけとしたい。そして，今まで友達にもっていたイメージをふり返り，「もっとよい友達とはどんな友達なのだろうか。」というめあてを意識化させる。展開前段では「ないた赤おに」の範読を教師が行う。時代設定が古く，長い話であることから，まず登場人物を整理させる。次に，青鬼が赤鬼に殴られている気持ちについて，役割演技を通して，その心情を感じ取らせる。特に，青鬼がぶたれながら言った言葉の意味を多様に考えさせながら，二人一組で，一斉に赤鬼，青鬼を演じさせる。さらに，赤鬼の前から去っていった青鬼からの手紙文を読み返して，家を捨て旅に出る青鬼の覚悟を想像させ，友を失った赤鬼の悲しみを考えて道徳ノートに書かせる。展開後段では，めあてに立ち返り，自分の生活を振り返り，今までの自分を見つめさせる。終末では，地域にある〇〇寺の住職の方をゲストティーチャーに招き，自己犠牲の上に成り立つ友情等の話を聞き，友達を信頼し合おうとする心情を喚起させる。

3　本時のねらい

　赤鬼の気持ちと青鬼の気持ちを比べ話し合うことによって，友達と助け合おうとする心情を育てる。

4　本時　　平成２０年１１月１９日（水）　第５校時　第３学年〇組教室に於いて

5　地域との関連（地域のひと・もの・ことの活用）

　地域人材・・・〇〇寺の住職　〇〇　〇〇さん

6　準備　　掲示資料「ないた赤おに」道徳ノート

7　展開

段階	学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
導入	1　友だちから受けた嬉しい体験を話し合い，本時のめあてを知る。 ○　休み時間に一緒に楽しく遊んだ。 ○　忘れ物をしたときに貸してくれた。 ○　怪我をしたときに，保健室に連れて行ってくれた。	○　ねらいへの方向付けを図るために，友だちとのかかわりの中で，嬉しい体験を想起させる。 ○　問題意識をもたせるために，「もっと友だちができるとしたら」と補助発問をする。
	めあて 友だちのことについて考えよう。	
展開前段	2　「ないた赤おに」の話を聞き，話し合う。 (1) 教師の範読を聞いて，話のあらすじをつかむ。 ○　赤鬼…人間と友だちになりたい。 やさしい。 ○　青鬼…赤鬼の友だち。	○　場面の状況を把握させるために，登場人物を整理していく。
	(2) 青鬼が赤鬼に殴られているときの気持ちについて，役割演技をして話し合う。	○　役割演技を通して，赤鬼，青鬼の心情を感じ取らせる。また，青鬼が殴られながらも言った言葉の意味を，多様に考えさせながら，二人一組で，一斉に赤鬼，青鬼を演じさせる。
	青おにはどんな気持ちで赤おにになぐられたでしょう。 また，赤おにはどんな気持ちでなぐったでしょう。	
	＜青鬼＞　　＜赤鬼＞ ○がんばれ。　　○青おにくんごめん。 ○ぼくは大丈夫だよ。○大丈夫かい。	○　児童の思いが出るように，教師が会話を認め受け入れるようにする。
	(3) 青鬼の手紙の範読を聞いて，赤鬼の気持ちを道徳ノートに書いて，発表する。 ○　ごめんね。 ○　もどってきてほしい。 ○　青おににわるいことをしてしまった。	○　手紙文を再度読み返してみる。家を捨てて旅に出る青鬼の覚悟や「どこまでも」とはいったいどこまでかを投げかける。 ○　人間と楽しく暮らしている間，赤鬼はどんな気持ちでいたか，友を失った赤おにの悲しみを考えさせる。
展開後段	3　自分の生活をふり返り，友だちのことを思って我慢したことを道徳ノートに書いて，発表する。	○　「あなたは友だちのために，我慢できますか。」と問いかけをして，日頃の友だちへの接し方を振り返るきっかけとする。
	友だちのことを思って，がまんしたことはありますか。	
	○　ドッジボールで，ボールを渡してあげた。 ○　係決めのとき，ゆずってあげた。	
終末	4　ゲストティーチャーの住職の方の話を聞く。	○　○○寺の住職の方の話を聞き，もっと良い友だちとは信頼し合えることととらえさせ，友だちを大切にしようとする意識の継続を図る。

8　板書計画

友だちからしてもらって、うれしかったこと
・休み時間に楽しく遊んだ。
・わすれ物をしたときにかしてくれた。

めあて
友だちのことについて考えよう。

「ないた赤おに」

青おにくん、ごめん。　だいじょうぶかい。

がんばれ。　ぼくはだいじょうぶだよ。

赤おに君。人間たちとはどこまでもなかよくまじめにつき合って、楽しくくらしていってください。ぼくはしばらく君にはお目にかかりません。このまま君とつきあいをつづけていけば、人間は、君をうたがうことがないともかぎりません。それではまことにつまらない。そう考えて、ぼくは、長い長い旅に出ることにしました。けれどもぼくは、いつでも君をわすれない。さようなら、君。体を大事にしてください。

どこまでも君の友だち　青おに

ごめんね。　もどってきてほしい。
青おににわるいことをしてしまった。
友だちのことを思って、がまんしたことはありますか。

9　道徳ノート

どうとくノート　三年　組（　　）

めあて
友だちのことについて考えよう。

「ないた赤おに」
○　はり紙を読む赤おにの気持ち。

赤おに君。人間たちとはどこまでもなかよくまじめにつき合って、楽しくくらしていってください。ぼくはしばらく君にはお目にかかりません。このまま君とつきあいをつづけていけば、人間は、君をうたがうことがないともかぎりません。それではまことにつまらない。そう考えて、ぼくは、長い長い旅に出ることにしました。けれどもぼくは、いつでも君をわすれない。さようなら、君。体を大事にしてください。

どこまでも君の友だち　青おに

友だちのことを思って、がまんしたことはありますか。